

# 令和4年度 子ども教育入門ゼミ・プレゼミの成果と課題

福富 隆志

藤本 朋美

## 1. はじめに

南九州大学人間発達学部では、必修のゼミナール科目として1年次に「子ども教育入門ゼミ」(以下、入門ゼミ)が、2年次に「子ども教育プレゼミ」(以下、プレゼミ)が設定されている。これらの科目は、学生を高等学校の学びから大学の学びに、さらには研究活動につなげるものとして、学部の教育プログラムの根幹を成すものと言えることができる。これらのゼミは1ゼミ(教員1名)5~6名で実施され、大学での学び方を知る場であるとともに、仲間づくりの場でもある。特に1年生にとっては大学入学後最初の居場所となり、学修支援に加え、大学生活支援を行う場ともなる。

昨年度(令和3年度)のこれらのゼミは、主に基礎的な学修技術(アカデミック・スキルズ)を領域ごとに分けて、それぞれの領域ごとに「説明→演習」の順番で活動が行われるという構成で実施されていた。例えば、「文章表現」という領域では、最初に「文章表現に関する知識やスキルの説明」が行われ、その後に「それらを活用させる演習」が行われた。これらの活動は、学生に基礎的な知識やスキルを習得させるという点で一定の効果があったと考えられる。

しかしながら、これらの活動にはいくつかの問題点がある。第一に、多くの学生は、既に基礎的な学修技術の知識やスキルを高等学校で学んでいる。したがって、改めてこれらについて説明するよりも、これらをより深めさせるほうが、大学生の学びとして重要だと考えられる。第二に、本学の学生は3年次より希望する専門領域にそって各教員のゼミに所属し、卒業研究の執筆に向けた学びを進めるが、3年次になっても自分の研究関心が明確でない学生が多い。したがって、これまでの学びを研究活動につなげるための教育プログラムが必要だと考えられる。

そこで本年度(令和4年度)は、上記の問題を解決するために、筆者らが中心となって入門ゼミ・プレゼミの活動計画を大幅に修正し、学部教員の協力のもとに実施した。また年度末には、これらの活動について学生に評価してもらうためのアン

ケートを実施した。本稿の目的は、このような経緯で実施された入門ゼミ・プレゼミの活動内容やアンケート結果を報告し、活動の成果や課題について考察することである。

## 2. 目的と方法

### 2.1. 入門ゼミ

**目的** 主目的は、基礎的な学修技術、すなわち「聴く」、「読む」、「書く」、「調べる」、「整理する」、「まとめる」、「表現する」、「伝える」ために必要な知識やスキルの習得である。また、学生にとっての居場所や仲間をつくることも目的とする。

**方法** 基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマに沿って文章表現(レポート作成)、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。例えば、調査テーマを「人権と教育」としたゼミは、一貫してそのテーマに関するレポート作成やプレゼンテーション等を行う。

また、昨年度は、主に学修技術ごとに「全体ゼミ→個別ゼミ(前半:全体での説明、後半:各ゼミでの活動)」の流れで実施したが、座学中心となり学生の学修経験を十分に確保することができなかった。そのため、今年度は主に「個別ゼミ→全体ゼミ(前半:各ゼミでの活動、後半:全体での解説や演習)」の流れとし、学生が経験しながら学びを深められるようにする。

### 2.2. プレゼミ

**目的** 主目的は、基礎的な学修技術の活用、すなわち「子ども教育入門ゼミ」で習得した知識やスキルの研究への活用である。またそれに伴い、3年ゼミの選択に向けて、自身の研究関心を明らかにし、研究概要(現時点での研究関心についての概要)としてまとめることも目的とする。

**方法** 前半では、グループでテーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー等を行い、結果をプレゼンテーション資料にまとめて発表する。また、「研究とは何か」についての理解を深めるために、教員による研究発表に参加する。

後半では、個人でテーマを設定し、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究レビュー、それらを踏まえた自身の研究関心（何を研究したいのかなど）を研究概要としてまとめて、教員に向けて説明する。

### 3. 活動内容

#### 3. 1. 入門ゼミ

主な活動内容は、「読解」、「文章表現」、「情報収集」、「プレゼンテーション」、「ディスカッション」である。

「読解」では、読解の意義や、入門書レベルの専門的な文献の読解スキルについて理解する。また、課題となる文献を要約して発表し、その読み取り方について指導を受け、自身の読み方の問題点や改善点を把握する。

「文章表現」では、アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順、論文作法等を理解する。また、レポートを作成し、指導を受けることで、課題と改善への見通しをつかむ。さらに、他のゼミ生ともレポートを検討し合いながら、より良いレポートについて議論する。

「情報収集」では、情報収集の必要性、資料の種類や分類、大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。また、調査テーマについて情報収集を行い、文献リストを作成する。さらに、作成した文献リストについて指導を受けて、課題と改善への見通しをつかみ、次のプレゼンテーションのアウトライン作成につなげる。

「プレゼンテーション」では、プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。また、作成したプレゼンテーションについて指導を受けて、課題と改善への見通しをつかむとともに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。さらに、合同ゼミ（複数のゼミで合同で行う活動）にてプレゼンテーションの発表を行い、他のゼミ生と質疑応答をしたり、より良いプレゼンテーションについて議論する。

「ディスカッション」では、ディスカッションに必要な態度やマナーおよび基本スキルを理解する。また、調査テーマに関する論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。さらに、合同ゼミにて、議論に必要な情報と論点を提示し、他のゼミ生と議論を行う。

#### 3. 2. プレゼミ

主な活動内容は、「読解」、「グループ研究」、「研究デザイン」、「研究概要」である。

「読解」では、入門ゼミでの活動を発展させて、論文レベルの専門的な文献の読解スキルについて理解する。また、文献を要約して発表し、その読み取り方について指導を受け、自身の読み方の問題点や改善点を把握する。

「グループ研究」では、グループで研究テーマを決定し、発表に向けて準備を進める。具体的には、テーマに関する社会的背景を整理し、先行研究のレビューを行い、それらをプレゼンテーション資料にまとめる。また、合同ゼミにて研究発表を行い、より良い発表の方法について議論を行う。「研究デザイン」では、研究の方法やデザインについて理解するために、教員の研究発表に参加する。

「研究概要」では、個人で研究概要（現時点での研究関心についての概要）をまとめる。具体的には、現段階で関心を持つ研究テーマを決め、テーマに関する社会的背景の整理や先行研究のレビューを行い、考えられる研究アプローチについて検討する。さらに、複数の教員から研究概要について指導を受け、改善を行う。

### 4. アンケートの結果

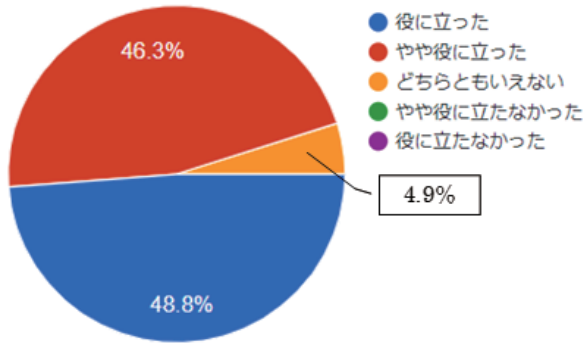
#### 4. 1. アンケート内容と実施方法

主に次の2つの観点からゼミ活動に関する回答を求めた。(1)各活動がどれだけ役に立ったか。具体的には、各活動内容について「役に立った」「やや役に立った」「どちらともいえない」「やや役に立たなかった」「役に立たなかった」のいずれかを選択し、選択の理由を記述してもらった。(2)全体を通した要望や改善点は何か。すなわち、全体的な要望や改善点などについて記述してもらった。

アンケートはGoogleformを利用し、オンラインで実施した。ユニバーサルパスポートの掲示を利用して周知したほか、入門ゼミについては最終授業日に各教員からゼミ生に周知してもらった。有効回答数は、入門ゼミに関するアンケートは41件(全履修者74名)、プレゼミに関するアンケートは14件(全履修者61名)であった。

## 4. 2. 入門ゼミ

### ①読解



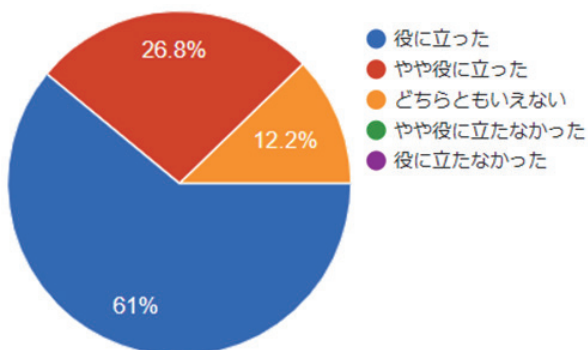
#### <理由(抜粋)>

##### ○肯定的

- ・文章を読んでいく中でどこに着目していけばいいのかが少しずつわかるようになった
- ・自分が、文章をまとめる時に短くまとめることを意識するようになった。要約をする時も大事な文章を見つけられるようになった。
- ・普段本を読まないのでも、読む機会にもなったし教育観を見直せることが出来た。
- ・初めは文字を連続的に書いていたが、要素要素を考えながら読んでみるとずっと頭に残っていて読みやすかった。
- ・要約をすることで、何を筆者が伝えたかったのかわかり、自分の考えにも影響があった。読解力を身につけると考え方のレパートリーも増えると思った。

- 否定的、改善点の指摘など  
特に無し。

### ②文章表現



#### <理由(抜粋)>

##### ○肯定的

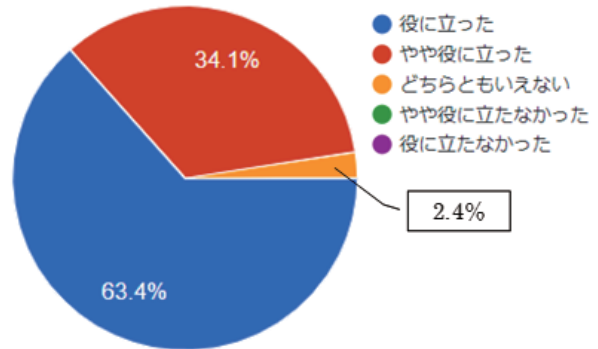
- ・レポート作成時に、どのような文章構成で作れば良いか、どんな表現をすれば良いかよく理解できたから。
- ・参考文献のやり方が分かるようになった。レ

ポートの構成の仕方が分かるようになったから、他のレポートを作成する時に生かすことが出来た。

- ・レポートの書き方は全然知らなかったから、感想文に似たようなものになっていただけ構成や順序を知れたのでレポートの正しい書き方を意識していきたい。
- ・自分の気持ちだけでなく、論理的に書くことの大切さや書くためにどうすればいいかについて知ることが出来たから。

- 否定的、改善点の指摘など  
特に無し。

### ③情報収集



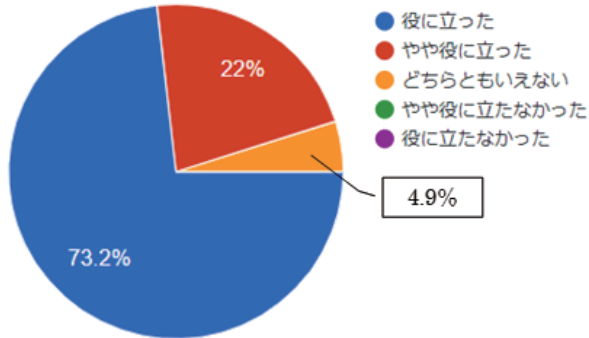
#### <理由(抜粋)>

##### ○肯定的

- ・図書館での探し方やキノデンなどによる参考資料の探し方がわかるようになり情報収集をスムーズに進めることができたから。
- ・自分で本を見つけて情報を集めるようになった。インターネットで参考文献にする時に、サイトの正確性がきちんとあるかを考えながら情報収集ができるようになった。
- ・自分の読みたい本などの見つけ方など全く知らなくて、そのまま単語だけを並べて調べていたけど、ちゃんとヒットしやすい調べ方があるということが分かったため今後のレポートに役立てていこうと思った。
- ・これまで参考文献はインターネットから引用することが多かったですが、図書館での情報の収集の仕方や参考文献の正しい書き方を学ぶことができました。

- 否定的、改善点の指摘など  
特に無し。

④プレゼンテーション



<理由(抜粋)>

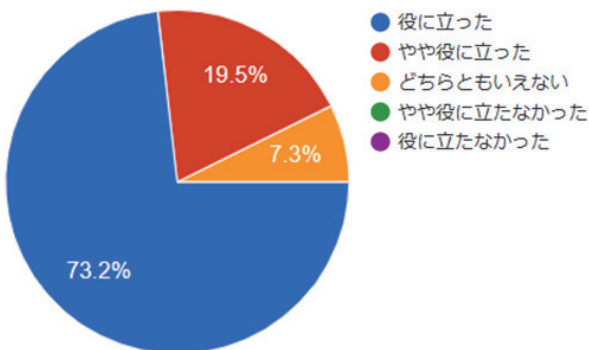
○肯定的

- ・ゼミの中で協力しながらどうしたら伝わるのかやPowerPointを見やすくするにはどうすれば良いのかなどを考えることができ、役に立ったから。
- ・自分たちが分かるだけでなく、他の人に分かりやすく伝える方法を考えるきっかけになった。どういう方法を使えば、分かりやすくなるのかを考えた事が、他の授業にも生かされたため。
- ・周りが見やすいパワーポイントや伝わりやすい示し方を身につけることができた。特に文章のつながりを意識しながらスライドを進めることができた。
- ・他のグループのプレゼンテーションを見て、自分たちと何が違うのかどこがいいのかを知ることが出来ました。

○否定的, 改善点の指摘など

特に無し。

⑤ディスカッション



<理由(抜粋)>

○肯定的

- ・質問されたことによって自分たちの意見をより深く考えることが出来たから。また相手の考えを理解しようとする事ができたから。
- ・テーマの大事さが分かったり、話し合いをする時にほかの人たちが意見を出しやすい設問を考

えたりすることが出来たから。他のゼミ生の意見も聞いてより理解を深められた。

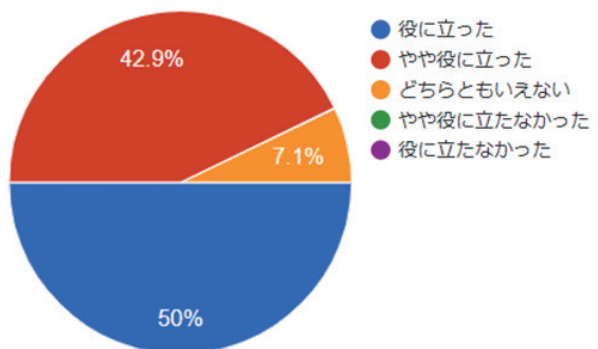
- ・答えのない問に対して、様々な意見をだし、意見共有することで学びが深められた。
  - ・いじめアンケート(筆者注:回答者のグループが提示した論点)について考える中で私たちの考えでは否定的な意見が多くありましたが、肯定的な意見が出てきたり、活用の仕方を変えればいいものになるといった意見が出てきて新しい視点からみることができました。
  - ・他のゼミの友だちとディスカッションをして、別の視点からの意見がたくさん出てきて勉強になりましたし、多く知れることが楽しかったです。
- 否定的, 改善点の指摘など
- ・知識は身についたが、知識を生かす場面がなかった。

⑥全体的な要望や改善点など(抜粋)

- ・レポートの書き方を知り、またそれを何度も添削して頂いたおかげでこれからレポートを書く際に困らないと思えました。また、自分たちのピーク(筆者注:主たる免許状)のことで1から調べることが出来たので、今後の将来に必要な学習や知識を学ぶことが出来ました。
- ・ゼミの人とも仲良くなることができ、話し合い等もスムーズにすることが出来た。
- ・先生方が活動内容を共通理解しておいてほしい。
- ・ゼミごとに授業内容や課題内容などが異なっていて、差があると感じた。
- ・ゼミで協力して学ぶことをもっと序盤に増やして欲しい。
- ・せっかく1年かけてゼミで仲良く慣れたのに、2年からバラバラになるのは少し嫌でした。

4. 3. プレゼミ

①読解





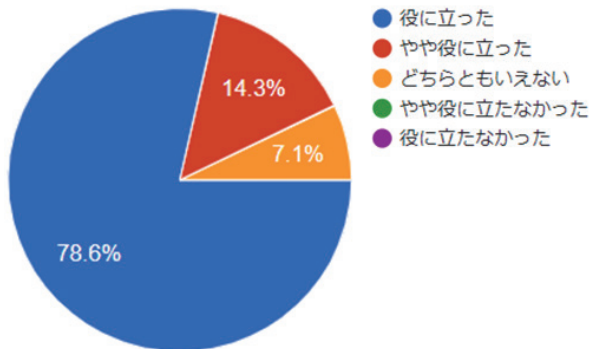
<理由（抜粋）>

○肯定的

- ・自分の興味のある分野についての学びが深まったから。
- ・どの点を重視して、読めばよいかわかったため。
- ・自分が調べたいことに対して本のどこを見れば良いのか学ぶことができたから。

- 否定的，改善点の指摘など  
特に無し。

②グループ研究



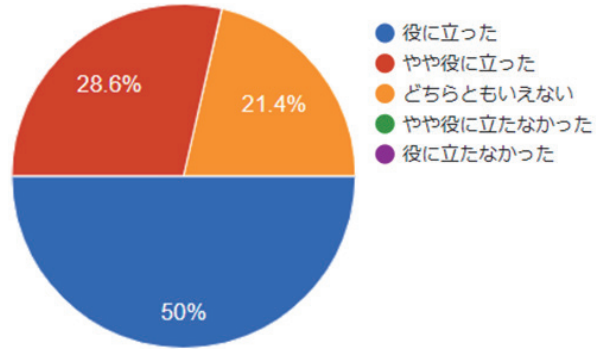
<理由（抜粋）>

○肯定的

- ・グループでテーマを決定し，研究発表する流れを学べたところがとても良かった。また，他グループの発表も聞いたことで，それぞれ研究方法や内容の違いなどを学ぶことが出来た。
- ・ゼミ内で何かを調べて発表する力が求められる。またゼミ内で周囲の人と話しながら作るグループ発表が新鮮で良い経験になった。今後の，卒論で生かして行けるいい経験だった。
- ・グループ活動において，自分がどんな仕事ができ，グループに貢献できるか知ることが出来たり，実際に障がいのある方にインタビューし，直接の意見を聞くことが出来たりしたから。
- ・自分の考えだけでなくグループで考えることにより，新たな考えや価値観を見つけることができたから。

- 否定的，改善点の指摘など  
特に無し。

③研究デザイン



<理由（抜粋）>

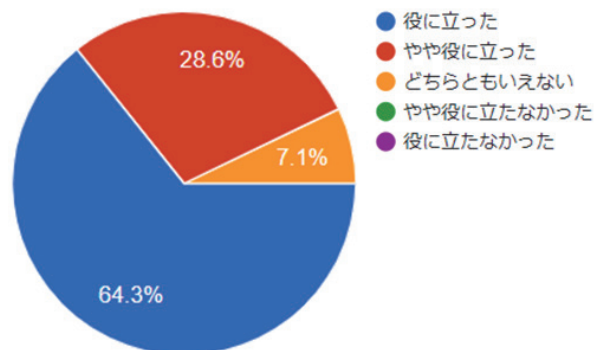
○肯定的

- ・先生方がどのような研究を専門としているのかを知ることができ，ゼミを選ぶのに役立ったから。
- ・来年卒論を書くためのゼミを決めなければならない時に，各先生方がどんな分野を研究してたり，得意としているのか知ることが出来たから。
- ・教員の研究内容を理解することが難しかったところもあったが，研究方法や研究の進め方などに関しては良い勉強になったから。

○否定的，改善点の指摘など

- ・先生方がどのような研究をしているか内容が少し難しかった。学生が理解できるように分かりやすく書いてくれればなお良かった。
- ・教員の専門とする研究についてはよく理解できたが，過去の先輩方の卒論テーマや専門ゼミでどのように研究していくのかなどを知りたかった。

④研究概要



<理由（抜粋）>

○肯定的

- ・自分が現在気になっている研究やテーマについて深めることができた。また，現在気になっているテーマについて先生方のご指摘のお陰で深めることができた。今後も，この活動は続けてほしいと考える。

- ・複数人の先生方から自分の研究テーマに対して意見をもらえ、卒論に向けてどういった研究をしていけばいいのか知ることが出来たから。
- ・自分が調べたいテーマや方法に関してのアドバイスや提案などを聞いて、今後どうしていくのかを考えることができたから。

○否定的、改善点の指摘など  
特に無し。

#### ⑤全体的な要望や改善点など (抜粋)

- ・充実したプレゼミでしたが、教員と学生で何故このゼミ内容をするのかが共有されていないことや、全体で課された課題にも教員によって範囲が異なったりなど、困惑する場面がいくつかあった。
- ・内容が読解力がないと難しいものが多かった。誰でも分かりやすい言葉で説明をしたり、内容を進めてほしいと考えた。

## 5. 考察

本稿の目的は、本年度の入門ゼミ・プレゼミの活動内容を報告するとともに、年度末に実施された学生対象のアンケート結果から、活動の成果や課題を考察することであった。

アンケート結果を見ると、全体的に「役に立った」「やや役に立った」という回答が多かった。また回答の理由も、その活動の趣旨に沿った学びができたからという旨の肯定的な記述が多かった。特に入門ゼミにおけるプレゼンテーションとディスカッション、プレゼミにおけるグループ研究と研究概要では「役に立った」の割合が高いため、他者と協力したり、意見交換をしたり、自分の研究関心を深めたりする活動に意義を感じた学生が多かったとすることができる。これらの点から、学生を高等学校の学びから大学生の学び、ひいては研究活動につなげるというゼミ活動の目的は、一定程度は達成されたと考えられる。

一方で課題も見られる。まず、入門ゼミ・プレゼミとも、読解については「役に立った」の割合がやや低かった。読解に関する知識やスキルは体系的な教授が難しく、また各教員によって課題とされた文献の種類や難易度にばらつきがあったかもしれない。また、プレゼミの研究デザインでは「役に立った」と「やや役に立った」の割合が比較的低く、その理由として各教員の研究発表の難しさが挙げられていた。教員の研究は専門性が

高く、学生にとってはやや堅苦しく難しい内容であった可能性がある。これについては、研究発表についてのガイドラインを設定したり、場合によっては過去の学生の卒論を利用したりするなどして、研究デザインを学ぶという目的を達成できるようにする必要があるだろう。

さらに、入門ゼミ・プレゼミとも、今後の要望や改善点として、「各教員による活動の共通理解」が複数挙げられていた。ゼミ活動が本年度大幅に修正されたこともあり、各教員によって「なぜこの活動をするのか」「どのような活動をするのか」についての理解度に差があったため、ゼミごとの活動内容にバラツキが生じた可能性がある。したがって、来年度以降は、本年度の経験を活かして、教員間の理解の差がどこに生じたのかを特定し、各教員が共通理解できるようなガイドラインを作ったり、内容についての周知をしたりなどを徹底する必要があるだろう。